「スライドショー作り」の環境教育の効果

東京農工大学農学部　佐藤敬一
keisato@cc.tuat.ac.jp

(NPO) JUON NETWORK　鹿住貴之
kasumi@univcoop.or.jp

１．はじめに

森林の場で、環境教育を行い、参加者に環境意識を根付かせる森林環境教育が注目されている。著者らは大学における授業や公開講座、NPO 法人 JUON NETWORK での「森林の楽校（もりのがっこう）」等において、森林環境教育の実践と普及活動を行っている。森林環境教育の目的は、地球温暖化対策や循環型社会構築のために、森林の機能を生かした林業や循環資源としての木材利用や木質・森林バイオマス利用が重要であることを理解してもらうことである。しかしながら、これを前面に押し出した指導者養成講座を計画したとしても、内容が固く、面白みが薄く、また、参加者の募集も難しい。したがって、一連の自然体験型の環境教育指導者養成プログラムを行い、その中のアクティビティとして、森林の機能・木材利用・木質森林バイオマス利用について参加者に理解を促すことが重要である。このようなプログラム中の主アクティビティとしてスライドショー作りが考えられる。そこで、本研究では環境教育指導者レベル対象、および、小学生低学年対象の森林環境教育プログラム「スライドショーづくり」を試行した。

２．環境教育指導者養成プログラム

表１のように、1）平成１６年度前期の大学院生授業と学部１年生対象の基礎ゼミ受講者、2）FS センター（演習林）主催の小中高校教師対象の公開講座-森のしくみ-「森林環境教育のすすめ」、3）平成１６年度農学部技術職員研修「体験型環境教育について」のそれぞれのプログラム中に行った。

デジタルカメラにより、参加者が自ら写真を撮り、スライドショーづくりには Microsoft 社の PowerPoint を利用した。スライドショーの時間は５分とし、BGM やナレーションも検討させた。1）2）のグループ分けには人間 KJ 法を用いた。各自の「○○を伝えたい」の思いを擦り合わせ、グループを作るプロセスは以降の作業を円滑にするアイスブレイクにもなった。3）では、予めメンバーを指定したが、プログラム企画法、すなわち、思いの整理・与件・マーケティング・ポテンシャル分析・コンセプト作成の一連の流れを説明し、作業に応用するように、企画作製シートを配り、これを元に討議しながら作業させた。発表後にスライドショーの修正

に生かせる生産的な意見を各参加者のメモ書きを集め、フィードバックとしてグループに戻した。

スライドショーづくりは、1）写真撮影時に参加者の感性を働かせて自然を見るようになる、2）見る人に思いを伝えるための表現力の育成、3）共同作業による、主張と妥協などの人間関係の学習、などに効果がある。特に、作品の出来よりも、作業の過程を体験することの方が重要である。ただし、参加者に対してはパワーポイントの研修の印象が残ってしまいがちであった。

表 1　16 年度の指導者養成プログラムとしての「スライドショーづくり」

プログラム名	1）授業及び基礎ゼミ	2）公開講座-森のしくみ	3）農学部技術職員研修
日　程	16 年度前期授業 1 時間半を 3 回	7 月 26～28 日	9 月 21・22 日
対象者	大学院生 24 名 学部 1 年生 8 名	小中高校教師　28 名	農学部研究室と農場の技術職員　11 名
グループ数	6	4	3
グループ分け方法	人間 KJ 法	人間 KJ 法	予め指定
場　所	農学部キャンパス	FM 大谷山・FM 草木	清里と農学部キャンパス
スライドショーのテーマ	○○○に キャンパスの自然の ○○○○を伝えたい	自分の児童・生徒に 森林の○○○○を つたえたい。	学生に対して 体験型の実験実習に 誘う
発表後のフィードバック	○	×	○ フィードバック後に修正

３．小学生低学年対象プログラム

2005 年 3 月 27～29 日の 2 泊 3 日の期間に岐阜県谷汲のラーニングアーバー横蔵（廃校を利用した宿泊型のセミナーハウス）において小学校低学年対象の「森林の英語楽校(木と森を知ろう英語で遊ぼう)」を行った。参加者は 1 年生 4 名、2 年生 14 名、3 年生 5 名、年長 1 名、父兄 2 名であった。男女比は 11：13、大阪の小学生 17 名、地元岐阜の小学生は 6 名であった。スタッフは外国人講師 1 名を含め 3 名で行った。昨年春、夏に行っており、今回で 3 回目である。

タイトルは「谷汲、僕たち・私たちの大発見！」として、里山の集落での自然や暮らしを探検し、デジカメで写真を撮り、子どもたちの発見をスライドショーで発表する内容にした。宿舎から歩いて 15 分程度の距離の木曽屋の集落に取材に行かせた。発見したもののスケッチ、名前、特徴、調べたことなどを記入できる用紙

を取材ノートとして配布した。

スライドショーは発見したものを「TOP５」として発表する形とし、枚数の制限を付けた。1 日目の夜に、スタッフが例として作成したスライドショーに、参加した父兄がナレーションを付け、取材（探検）前に子どもたちに見せた。

スライドショー作りのパソコン作業はスタッフが行ったが、子どもたちの指示通りに作った。また、ナレーションの原稿も子どもたちが作り、録音した。発表会では各グループの作品が終わるたびに数分の時間を取り、自分が気に入ったものの番号、感想やコメントを書き込める「感想メモ」を参加者に記入させ、フィードバックとして感想を読み合う、わかちあいの時間を設けた。参加した子どもたちからのプログラムのフィードバックとして、アンケートを子どもの父兄に送り、子供にインタビューして記入してもらった。

子どもたちにとっては、スライドショー作りは困難な作業であったと思うが、それぞれのグループはメンバーが満足できる作品に仕上がっていて、充実感があったようだ。また、最初はなれない友達との共同作業も、互いに意見を言い合いながら進められるようになった。

３．１　プログラムのスケジュール

1 日目

14：00　opening、アイスブレイク

15：00　English lesson, 好きなものを絵に描いて、似たもの同志が集まるグループ分け（人間 KJ 法）

16：00　年輪の説明とバームクーヘン作り

19：30　夕食とバームクーヘン試食

21：00　bedtime story
（父兄＋スタッフでデモ用のスライドショーを作成）

2 日目

6：30　バードコールハイク

7：30　朝食

8：30　English lesson

9：30　木、森、里山の話

10：00　スライドショーの例と作業の説明

10：30　木曽屋（近隣の集落）への探検開始

12：30　探検終了、昼食

14：00　追加取材、スライドショー作り、ナレーション原稿作り、ナレーション作業

19：30　夕食（食後に、グループによっては作業を継続）

22：00　bedtime story

3 日目

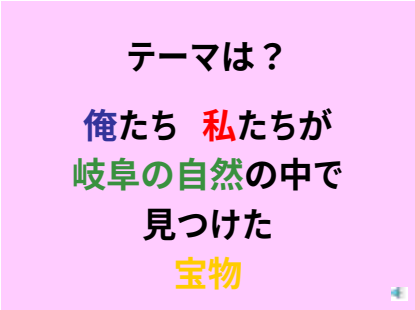
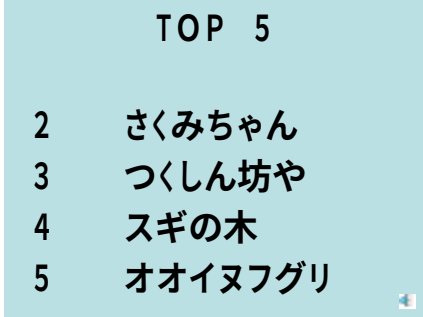
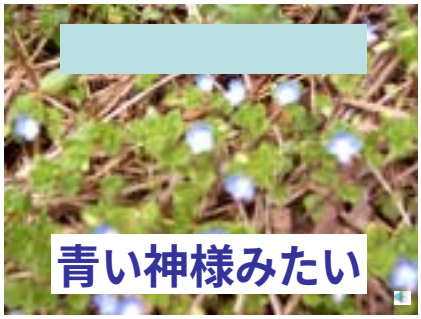
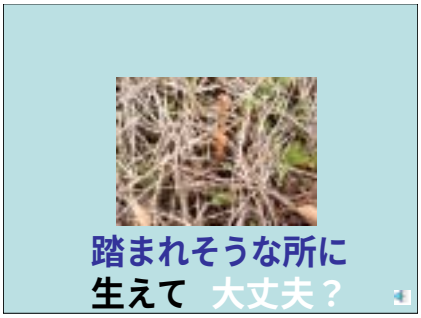
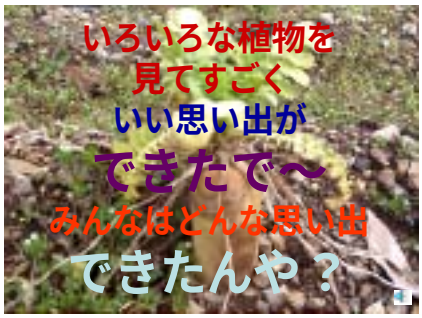
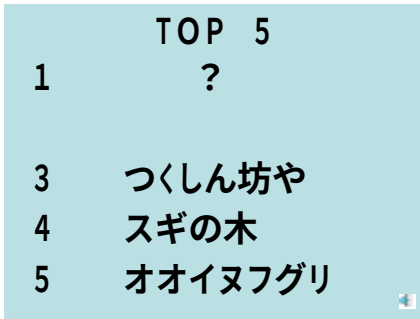
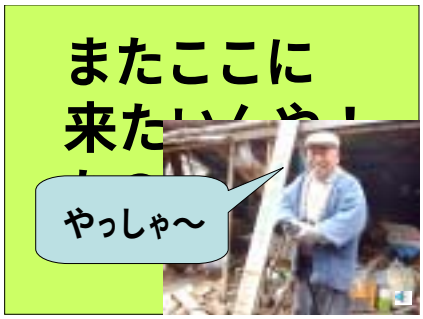
8：00　起床、布団整理、かばんの片付け

9：30　English game

10：00　針葉樹の話と識別(スギ、ヒノキ、ビャクシン、サワラ)

10：30　スライドショー発表会と感想メモ

11：30　植樹

12：00　各グループの感想メモを読む（わかちあい）、昼食、closing

子供たちが作ったスライドショーの例